

虹橋日本商品センター

ー「保税販売」を活用でき、直販が可能

日本の商品を集めた「虹橋日本商品センター」が2012年4月、上海虹橋空港第一ターミナルA棟でグランドオープンする予定。同センターは、日本商品の販売だけでなく、定期的にイベントを開催するなどし、日中間の経済・文化交流のプラットフォームを目指す。現在出店企業を募集している。

一、日本商品センターを建設の背景

これまで日系小売り企業では、百貨店やGMS、コンビニを中心に中国進出を果たしてきましたが、最近では、沿岸部都市などにおける中間所得層の購買力向上やライフスタイルの変化を背景に、専門店企業の展開余地も拡大しつつある。

ただし、こうした専門店企業が現地で事業展開する際には、現地法人の設立・展開地域の選定・店舗物件確保・税金計算など、様々な課題に直面している。特に中小企業には、途中で「体力」を無くし、事業を諦めるというケースが多い。

中国で現地法人を設立せず、直販が可能であれば、色々チャレンジしたい企業がかなり出てくる。日系企業の要望に応じて、上海市長寧区政府が経済活動一環として、虹橋日本商品センターが誕生された。



二、虹橋日本商品センターの規模とメリット：

- ① 管理側：上海商禾投資管理有限公司（上海市長寧区政府が委託した）
- ② 規模：17,414㎡＝約5,300坪
- ③ 店舗数：100店舗・テナントを募集する予定
- ④ 税金：空港にある特典を生かし、商品の販売は販売後の納税となる。所謂「保税販売」を活用できる。

- ⑤ 法人：現地法人を設立せず、直販が可能
- ⑥ その他：流通・販売・プロモーションにおけるサービスが充実。
今後、テレビショッピング、ネット販売の活用も可能となる。

三、出店企業についての要望

上海商禾投資管理有限公司の総経理、張さんは、「出店対象企業は、上海で付加価値の高い日本商品やコンテンツの販売を目指す日本企業。特に中小企業の皆様の出店を期待している。現地法人の設立やパートナー探し、人材の採用、各種届出の初期費用が不要なことから、初めて中国に進出する日系企業に最適だ」とアピールしている。



具体的な分野で言えば、ファッション性が求められるバラエティ雑貨、高い安全性が求められる食料品やベビー用品、肌に触れる化粧品などが成功しやすい分野と言われている。

四、消費者の構成



出店場所の虹橋空港第一ターミナルは、現在日本便・韓国便の国際線と、春秋航空の国内便・国際便が使用している。国際線の年間利用者は、約250万人、国内線の年間利用者は、約350万人。5キロのエリア内で、約174万人が居住している。富裕層も多く、特に日本人が多く住む虹橋エリア及び古北新区

にも近く、富裕層や日本人を来店客の主要ターゲットにしている。

具体的な消費者構成は、周辺の高級住宅の住民40%、国内・国際線の乗客25%、高速鉄道などの乗客25%、国内観光客10%となる。

「虹橋日本商品センター」は、上海市の第12次五ヵ年計画の重点プロジェクトとして、上海政府からかなりの力を入れており、今後、日本商品の情報発信地になることが間違いない。

申し込み先：

会社名：上海商禾投資管理有限公司

住 所：上海市 延安西路358号 美麗園大廈 11階B座

電 話：86-21-5268-1627

メール：zh@jp-fair.com

URL: www.jp-fair.com

2011年11月24日

上海オフィス 蔡 徳栄

参考資料：WHENEVER BIZ CHINA

BIZ PRESSO